

2024年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は 2005 年 4 月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト¹で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート実施報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたい。現在、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いたことで対面授業への移行が進むとともに、部分的にオンライン講義が活用される状態になっている。本アンケートの結果を踏まえて、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

本会計大学院は 2023 年度に会計大学院評価機構による認証評価を受け、すべての基準に適合しているという評価を受けた。2023 年度からは会計大学院 学部・大学院一貫教育プログラム（高度会計専門家養成）を開始し、体制の改善を行っている。新しいカリキュラム体系の確認と改善のために今回のアンケートの結果を活かしたいと考えている。

2025 年 4 月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

① 「会計大学院の修了者に対するアンケート」(巻末資料1)

2024年4月から2025年3月にかけてメーリングリストや個人面談時における担任からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

② 「会計大学院の授業に関するアンケート」(巻末資料2)

2025年1月8日(水)～2025年2月1日(土)にメーリングリストや担当教員からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

両アンケートともに無記名であり、1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の修了者に対するアンケート」は、2024年度中に会計大学院を修了する学生を対象にアンケートを行っている。「会計大学院の授業に関するアンケート」は、プロジェクト調査・研究以外で履修者数(他専攻または他学部からの履修者も含む)が原則5名以上の科目を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。

本報告書では、まず「会計大学院の修了者に対するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析する。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。2022年度からはアンケート結果に対する担当教員からのリプライを収集し、学内向けに公開している。また、2022年度前期には入学前の出身を示す設問、2022年度後期からは主な授業方法を示す設問を追加し、2023年度後期からは予習、復習、宿題に割く時間をそれぞれ回答させる設問を時間外学習に割く時間に関する設問にまとめるなど、アンケートの改善を図っている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の修了者に対するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケートの URL は 2024 年 4 月から 2025 年 3 月にかけてメーリングリストや個人面談時における担任からのアナウンスを通じて配布され、回収を行った。2024 年度における会計大学院の修了者 41 名（2024 年 9 月修了者 3 名、2025 年 3 月修了者 38 名）のうち、回収数は 20 件である（回答率 48.8%）。オンラインでの任意回答であることを踏まえると回答率は参考にすべき水準にあり、アンケート結果には会計大学院修了生の意見が概ね反映されていると考えられる。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、過去に「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」においてほぼ同様の内容の質問を行っていた設問 4、設問 5 については直近 8 年度分の推移を示している。その他の設問については、設問を設定した年度からの結果の推移を示している。なお、全項目の集計結果については巻末資料 3 を参照されたい。

設問 1 および設問 2（表は未掲載）は受講者属性を問うものであり、20 件の修了者からの回答のうち、14 件が公認会計士コース修了者、4 件がビジネスアカウンティングコース修了者、1 件が会計リサーチコース修了者、1 件が修了コース未回答者からの回答であった。

設問 3: これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？

設問3		2019	2020	2021	2022	2023	2024
選択項目							
5 適切である		75.00%	36.84%	76.47%	68.42%	62.50%	40.00%
4		16.67%	63.16%	5.88%	31.58%	37.50%	45.00%
3		8.33%	0.00%	17.65%	0.00%	0.00%	15.00%
2		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
1 不適切である		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計		100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数		12	19	17	19	24	20

設問 4: セメスターごとの開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？

設問4								
選択項目	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
5 適切である	27.78%	47.37%	91.67%	57.89%	70.59%	63.16%	50.00%	30.00%
4	33.33%	26.32%	8.33%	26.32%	5.88%	26.32%	37.50%	45.00%
3	11.11%	10.53%	0.00%	15.79%	23.53%	10.53%	4.17%	20.00%
2	27.78%	15.79%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	8.33%	0.00%
1 不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	18	19	12	19	17	19	24	20

設問 5: 成績評価に用いている GPA は、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？

設問5								
選択項目	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
5 適切である	27.78%	50.00%	83.33%	15.79%	64.71%	63.16%	66.67%	30.00%
4	27.78%	38.89%	16.67%	36.84%	11.76%	31.58%	33.33%	35.00%
3	27.78%	0.00%	0.00%	31.58%	23.53%	5.26%	0.00%	30.00%
2	16.67%	11.11%	0.00%	10.53%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%
1 不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	5.26%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	18	18	12	19	17	19	24	20

設問 6: 時間割上の配置について適切だと思いますか？

設問6								
選択項目			2019	2020	2021	2022	2023	2024
5 適切である			75.00%	26.32%	82.35%	42.11%	50.00%	30.00%
4			25.00%	47.37%	5.88%	42.11%	33.33%	35.00%
3			0.00%	21.05%	5.88%	10.53%	12.50%	25.00%
2			0.00%	5.26%	5.88%	5.26%	0.00%	0.00%
1 不適切である			0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	4.17%	10.00%
計			100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数			12	19	17	19	24	20

設問 7: 講義室について満足度をお聞かせください

設問7								
選択項目			2019	2020	2021	2022	2023	2024
5 満足である			91.67%	36.84%	58.82%	42.11%	66.67%	45.00%
4			8.33%	42.11%	17.65%	31.58%	16.67%	30.00%
3			0.00%	15.79%	17.65%	26.32%	16.67%	25.00%
2			0.00%	5.26%	5.88%	0.00%	0.00%	0.00%
1 不満足である			0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計			100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数			12	19	17	19	24	20

設問 8: 院生研究室について満足度をお聞かせください

設問8									
選択項目			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
5	満足である		58.33%	47.37%	52.94%	15.79%	33.33%	15.00%	
4			33.33%	26.32%	11.76%	36.84%	37.50%	35.00%	
3			0.00%	15.79%	23.53%	31.58%	29.17%	40.00%	
2			8.33%	5.26%	5.88%	10.53%	0.00%	5.00%	
1	不満足である		0.00%	5.26%	5.88%	5.26%	0.00%	5.00%	
計			100%	100%	100%	100%	100%	100%	
総数			12	19	17	19	24	20	

設問 9: 会計大学院のトータルの満足度について

設問9									
選択項目			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
5	満足である		83.33%	52.63%	47.06%	42.11%	66.67%	30.00%	
4			16.67%	42.11%	29.41%	52.63%	33.33%	55.00%	
3			0.00%	5.26%	23.53%	5.26%	0.00%	10.00%	
2			0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	
1	不満足である		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
計			100%	100%	100%	100%	100%	100%	
総数			12	19	17	19	24	20	

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問 3 から 9 の集計結果をもとに、課題やその対応を検討する。

設問 3（授業内容の水準）については、「5 適切である」、「4」と回答した学生の割合を合わせると 85%となり、現行の科目配置によって提供される授業の内容はほとんどの学生に高く評価されていると考えられる。

設問 4（セメスター間の開設授業科目数のバランス）については、「5 適切である」、「4」と回答した学生の割合を合わせると 75%となり、設問 3 と同様に多くの学生からの高い満足度を得ていることが読み取れる。設問 3 と設問 4 と合わせて考えれば、カリキュラム全般に対する高い評価を得ているといえる。

設問 5（GPA による評価）では、「5 適切である」、「4」と回答した学生の割合を合わせると 65%となった。2021 年度以降改善の傾向が続いていたが、今年度は前年度と比べると最高評価 5 点の割合が減少している。単年度の結果であるため、今後も同様の傾向が続くか注意すべきである。

設問 6（時間割上の配置）では、「5 適切である」、「4」と回答した学生の割合を合わせると 65%となった。5 点と 4 点の割合合計は過半数を上回っているものの、過去 5 年と比べるとやや評価が低かった。設問 5 と同様に単年度の結果であるため、今後も

同様の傾向が続くか注意すべきである。

設問 7（講義室の満足度）では、「5 満足である」、「4」と回答した学生の割合を合わせると 75%となり、多くの学生から高い満足度を得ているといえる。

設問 8（院生研究室の満足度）については、「5 満足である」、「4」と回答した学生の割合を合わせると 50%となった。2022 年度とほぼ同水準であるものの、前年度よりも低下していることから、今後も同様の傾向が続くか注意すべきである。

設問 9（会計大学院の総合的な満足度）では、「5 満足である」、「4」と回答した学生の割合を合わせると 85%となり、当会計大学院への学生の満足度は概ね高い水準にあることがわかる。

本アンケートの回答は、回答を修了者に限定していることから、現在の在籍者も含めた現状の会計大学院全体での評価傾向とは異なるかもしれない。しかし、修了者は会計大学院の教育制度への理解度が高く、施設の使用期間も長いいため、実態の理解を伴う質の高いアンケート結果であると考えられる。以上の回答結果を踏まえて、今後も引き続き、充実したカリキュラムを保持・設計するとともに、提供可能な施設を整備していきたいと考える。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、原則として履修者が5名以上のプロジェクト調査・研究以外全ての開講科目である24科目について実施された。今学期におけるアンケート実施科目と、過去4年分の授業アンケートの回答率をまとめると表1のようになる。今回のアンケートでは、述べ履修者数504名に対して237名から回答を得た。アンケートの回答率は47.02%である。他専攻、他部局の動向を考慮すると、回答率は一定の水準を確保しているものと考えられる。

	履修者数合計	回答数合計	回答率
2021 前期	435	244	56.09%
2021 後期	443	234	52.82%
2022 前期	479	224	46.76%
2022 後期	465	193	41.51%
2023 前期	576	265	46.01%
2023 後期	433	181	41.80%
2024 前期	508	289	56.89%
2024 後期	504	237	47.02%

今回の授業アンケートの対象科目名
財務会計2，財務諸表分析，簿記2，公会計1，IFRS1，管理会計1，原価計算2，事例研究（原価計算），監査2，監査実務I，監査実務II，監査計画の編成法1，内部統制の実務，マーケティング，コーポレートファイナンス1，情報システム設計，金融行政II，企業法1，事例研究（企業法），事例研究（会計職業倫理），ビジネス・プレゼンテーション1，ビジネス・プレゼンテーション2，英文外書講読b，ワークショップb

表1：アンケート実施科目と回答率の推移

4.2. アンケートに関する基本統計量

表 2A は、設問 1、15、16 を除いて各設問の選択肢に好ましい回答ほど値が大きくなるような数値を設定したうえで、各設問の回答の分布と基本統計量（平均値、中央値、最頻値、標準偏差）を示している。なお、具体的なアンケートの内容については巻末資料 2 を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	113	200	18	117	158	185	172	171	180	166	172	126	164	117	37	170
4	5	35	22	87	46	33	40	41	36	49	43	46	45	-	109	52
3	49	0	50	29	25	17	23	21	19	19	19	42	20	83	39	14
2	7	1	74	4	6	1	1	2	2	3	3	11	4	-	42	1
1	14	1	73	0	2	1	1	2	0	0	0	12	4	37	10	-
0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237
平均値	4.45	4.82	2.32	4.34	4.49	4.69	4.61	4.59	4.66	4.59	4.62	4.11	4.52	3.68	3.51	4.65
中央値	5	5	2	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4	5
最頻値	5	5	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5
標準偏差	1.40	0.47	1.21	0.75	0.84	0.66	0.71	0.76	0.66	0.69	0.69	1.16	0.85	1.46	1.08	0.61

表 2A：アンケートの基本統計量

表 2A にあるとおり、設問 4（理解）から設問 13（キャリア）にかけての授業の理解度や評価に関する設問では平均値がすべて 4 以上であり、中央値や最頻値もほぼ全てが最高評価の 5 である。この傾向は、過去数年のアンケート結果と大きな違いはない。設問 16（受講方法）にみられるように、講義方法は対面（5 は対面を意味する）が主流となっており、オンライン（4 はオンデマンド、3 はリアルタイムを意味する）が併用されている状態である。

ただし、学生が授業時間外学習にかける時間はあまり多くない状態がある。設問 3（時間外学習）では 1 と 2 を選択した学生（1 は 1 時間未満、2 は 1-2 時間を意味する）が半数以上であり、多くの学生は授業時間外の学習に毎回 2 時間以下の時間をかける傾向にある。その一方で、30%以上の観測値が 3 以上を選択しており（3 は 2-3 時間、4 は 3-4 時間、5 は 4 時間以上を意味する）、毎回 2 時間以上の学習時間をかけていることが確認できる。設問 14（試験対策）からわかるとおり、本学の講義は資格試験等と関連する内容も含むため、学生が別途取り組んでいる試験対策の学習とも重なる部分があるだろう。そのため、一概に学生の学習時間が不足しているとは解釈しにくい。とはいえ、会計大学院が提供する講義内容は試験対策に限らないことから、理解には一定の学習時間が必要と考えられる。過年度と同様に、継続的にこの課題の原因と対処方法を検討していく。

全体として、学生からの各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、引き続き時間外学習にかかる時間を一定時間確保するように授業設計を工夫する必要があると考えられる。

対面

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	82	141	11	90	115	135	122	127	134	118	123	88	118	82	30	170
4	3	29	16	63	31	22	28	25	26	37	32	35	31	-	80	0
3	26	0	31	15	16	12	18	14	10	12	13	32	14	58	19	0
2	7	0	54	2	6	1	1	2	0	3	2	6	3	-	33	0
1	11	0	58	0	2	0	1	2	0	0	0	9	4	30	8	-
0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170
平均値	4.54	4.83	2.22	4.42	4.48	4.71	4.58	4.61	4.73	4.59	4.62	4.10	4.51	3.61	3.54	5.00

オンデマンド

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	23	45	6	25	37	39	40	36	40	38	40	36	36	26	5	0
4	1	5	6	16	8	7	7	10	3	8	6	6	9	-	21	52
3	19	0	16	10	7	5	5	6	8	6	5	7	6	22	16	0
2	0	1	16	1	0	0	0	0	1	0	1	3	1	-	8	0
1	2	1	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0
0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
平均値	4.23	4.77	2.73	4.25	4.58	4.60	4.67	4.58	4.58	4.62	4.63	4.44	4.54	3.85	3.37	4.00

リアルタイム

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	8	13	0	2	6	11	9	7	6	10	8	2	10	9	2	0
4	1	1	0	7	6	3	5	6	6	3	5	5	4	-	7	0
3	4	0	3	4	2	0	0	1	1	1	1	3	0	3	4	14
2	0	0	4	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	-	1	0
1	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0
0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
平均値	4.43	4.93	1.71	3.71	4.29	4.79	4.64	4.43	4.21	4.64	4.50	3.14	4.71	4.00	3.71	3.00

表 2B：受講方法ごとの回答結果とその平均値

講義の開講形式（対面、オンデマンド、リアルタイム）がアンケート結果に及ぼす影響があるかどうかを確認するために、表 2B では設問 16（受講方法）の回答ごとに回答を集計し、その平均値を掲載している。3 つの表を比較すると、リアルタイム型の講義における設問 3（時間外学習）、設問 4（理解）、設問 12（試験対策）が他の開講形式に比べて平均値がやや低くなっている。単年度の結果であるため、今後も同様の傾向が続くか注意すべきである。

4.3. 各設問間の相関

表 3 は、各設問間の相関関係を示している。各設問は、概ね、時間外学習時間に関する項目（設問 3）、授業評価に関する項目（設問 4～11）、学生の将来につながる授業かどうかに関する項目（設問 12、13）に分けられる。なお、設問 1、15、16 はそれぞれ受講者属性、入学前の所属、主な受講方法に関する設問であり、相関係数の意味が乏しいため除外している。また、±0.50 以上の相関係数については太字（色付き）にしている。設問 14 の資格については、より難易度の高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

表 3：設問間の相関係数

質問	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
2 出席	1.00												
3 時間外学習	0.17	1.00											
4 理解	0.25	0.07	1.00										
5 難易度	0.01	0.05	0.34	1.00									
6 教員準備	0.07	0.03	0.32	0.64	1.00								
7 プレゼン	0.11	0.10	0.36	0.67	0.73	1.00							
8 教材	0.06	0.03	0.35	0.67	0.71	0.70	1.00						
9 評価方法	0.04	0.01	0.48	0.52	0.54	0.54	0.50	1.00					
10 シラバス	0.06	0.03	0.36	0.52	0.58	0.53	0.56	0.64	1.00				
11 教員評価	0.11	0.14	0.40	0.67	0.81	0.79	0.72	0.67	0.65	1.00			
12 試験対策	0.07	0.03	0.35	0.50	0.38	0.41	0.41	0.42	0.27	0.44	1.00		
13 キャリア	0.05	0.16	0.22	0.67	0.69	0.73	0.72	0.54	0.50	0.71	0.41	1.00	
14 資格	-0.11	-0.19	-0.10	-0.05	-0.14	-0.17	-0.16	-0.13	-0.04	-0.18	0.08	-0.14	1.00

まず、学生の時間外の学習時間（設問 3）に注目する。時間外学習（設問 3）と授業評価（設問 4～11）または将来との関連性（設問 12、13）との相関はほとんどない。そのため、表 2A に見られた時間外学習の少なさが、講義の難易度、理解水準、将来に対する有用性の低下につながっている傾向は見られない。

次に、授業評価に関連した、理解（設問 4）、授業の難易度（設問 5）、教員の準備

(設問 6)、プレゼン (設問 7)、教材 (設問 8)、評価方法 (設問 9)、シラバス (設問 10)、教員評価 (設問 11) に着目する。従来と同様の傾向であるが、これらの設問間では高い正の相関が観察されることから、適切な難易度設計や評価方法、シラバスに始まる十分な準備やプレゼン・教材の設定、高い教員評価は、それぞれが密接に関係し、相乗的な効果を持つものと理解できる。ただし、前期と同様に後期においては、理解と他の授業評価の項目の間の相関がやや弱まっている。全体的な授業評価が好調であることから、学生の理解度に影響する要素が少なくなっている可能性もあるが、この傾向が継続するかどうかは注視すべきかもしれない。

続いて、試験対策 (設問 12) とキャリア (設問 13) という、将来の進路に関する有用性に着目する。いずれも授業評価 (設問 4~11) と正の相関を持つが、全体として試験対策 (設問 12) よりもキャリア (設問 13) の方が、強い相関関係が観察される。本学では、学術研究の動向や会計実務に基づく知識、倫理や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的な視点で学生の将来に有用となる講義を開講している。将来のキャリアに役立つ授業であるほど授業評価も高いことから、そのような内容の重要性が高まっていることが読み取れる。

また、設問 14 (資格) については、他の設問との相関がほとんどない。全体的な授業評価が好調であることを踏まえると、保有している資格にかかわらず適切な授業を実施できていると判断できる。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書は、会計大学院 WEB サイトを参照されたい²。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去 4 年間の推移を示し、設問ごとの所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料 4 を参照されたい。

² <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

設問 1: あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
公認会計士コース（2年）	27.0%	25.2%	34.4%	23.3%	33.2%	24.9%	36.7%	20.7%
公認会計士コース（1年）	43.4%	39.7%	41.1%	51.3%	40.0%	47.5%	36.0%	47.7%
会計リサーチコース	9.8%	9.4%	6.3%	6.2%	3.0%	2.2%	3.8%	2.1%
ビジネスアカウンティングコース	16.0%	21.4%	14.7%	14.5%	16.6%	18.8%	15.9%	20.7%
経済経営学専攻	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%	4.2%	0.6%	4.2%	3.0%
経済学部	1.2%	0.9%	2.7%	3.6%	3.0%	6.1%	3.1%	5.9%
その他	1.6%	3.4%	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

アンケート回答者の所属は、公認会計士コースの回答者が最も多く、次にビジネスアカウンティングコース、会計リサーチコースの回答者と過去 3 年と同様の分布になっている。

設問 2: この授業にどのくらい出席しましたか？（おおよその出席率で回答して下さい）

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
90%以上	95.9%	88.5%	93.8%	89.6%	92.5%	89.0%	90.0%	84.4%
89-70%	3.3%	10.7%	5.4%	8.3%	6.8%	8.8%	8.7%	14.8%
69-50%	0.4%	0.4%	0.4%	1.0%	0.4%	0.0%	1.0%	0.0%
49-20%	0.0%	0.4%	0.4%	0.5%	0.0%	1.1%	0.0%	0.4%
20%未満	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%	0.4%	1.1%	0.3%	0.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

90%以上出席した学生の割合が 8 割以上を占めているが、過去 5 年で一番低い値となっている。この傾向が続くかどうかは今後注視すべきかもしれない。

設問 3: この授業に係る授業時間外の学習に平均して毎回、どのくらいの時間をかけましたか？（予習、復習、宿題、課題等をすべて合計して回答してください）

選択項目						2023 後期	2024 前期	2024 後期
4時間以上						5.5%	7.6%	7.6%
3-4時間						7.7%	9.3%	9.3%
2-3時間						19.3%	27.7%	21.1%
1-2時間						39.8%	42.6%	31.2%
1時間未満						27.6%	12.8%	30.8%
計						100.0%	100.0%	100.0%
回答数						181	289	237

3 時間以上の授業時間外の学習を行う学生は、2024 年前期と後期で同水準にある。一方、授業時間外の学習が 1 時間未満となる学生は 2024 年後期がもっとも多くなった。今後も同様の傾向が続くか注意すべきである。

設問 4: この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 理解できた	50.4%	43.2%	49.1%	25.9%	42.3%	53.0%	43.6%	49.4%
4	38.1%	42.7%	37.1%	49.7%	43.0%	27.6%	33.9%	36.7%
3	11.1%	10.7%	12.1%	19.2%	10.2%	15.5%	17.6%	12.2%
2	0.4%	3.4%	1.3%	5.2%	2.3%	1.1%	3.5%	1.7%
1 理解できなかった	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	2.3%	2.8%	1.4%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

講義内容を「5 理解できた」または「4」と回答した学生の割合は過去と同様に高い水準を維持している。この水準を今後も維持する必要がある。

設問 5: この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 適切である	71.7%	59.4%	67.4%	57.5%	63.0%	67.4%	64.0%	66.7%
4	20.1%	29.5%	24.6%	31.6%	26.8%	21.5%	22.1%	19.4%
3	6.6%	9.0%	7.1%	10.4%	7.5%	8.3%	10.7%	10.5%
2	1.6%	1.7%	0.4%	0.5%	0.8%	0.6%	2.8%	2.5%
1 不適切である	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	1.9%	2.2%	0.3%	0.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

難易度が「5 適切である」または「4」と回答した学生の割合は従来と同じように 9 割前後の水準であり、難易度の設定は概ね適切と考えられる。

設問 6: 教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 十分だった	79.5%	67.1%	76.3%	62.7%	77.0%	80.1%	70.2%	78.1%
4	16.4%	25.2%	20.1%	28.5%	14.7%	14.4%	22.1%	13.9%
3	2.9%	6.4%	2.7%	6.2%	4.9%	2.8%	6.2%	7.2%
2	0.4%	0.9%	0.9%	1.6%	1.5%	1.7%	1.4%	0.4%
1 不十分だった	0.8%	0.4%	0.0%	1.0%	1.9%	1.1%	0.0%	0.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

教員の準備が「5 十分だった」または「4」と回答した学生の割合は約 9 割であり、従来と同じように高い水準となった。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 7: 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 十分だった	71.7%	67.1%	70.1%	61.1%	75.5%	80.7%	69.6%	72.6%
4	22.1%	25.2%	24.6%	29.5%	15.1%	11.0%	21.1%	16.9%
3	5.3%	6.8%	4.0%	6.2%	6.8%	5.5%	7.3%	9.7%
2	0.8%	0.4%	0.9%	1.6%	1.1%	1.1%	1.4%	0.4%
1 不十分だった	0.0%	0.4%	0.4%	1.6%	1.5%	1.7%	0.7%	0.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

教員のプレゼンテーションが「5 十分だった」または「4」と回答した学生は 9 割程度であり、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 8: テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 適切である	68.9%	61.5%	67.4%	59.6%	68.7%	78.5%	64.7%	72.2%
4	18.4%	25.6%	24.1%	26.9%	21.1%	11.0%	22.1%	17.3%
3	9.0%	10.3%	6.3%	9.3%	6.0%	7.7%	11.8%	8.9%
2	1.2%	1.7%	0.9%	2.6%	1.9%	1.7%	0.7%	0.8%
1 不適切である	2.5%	0.9%	1.3%	1.6%	2.3%	1.1%	0.7%	0.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

テキスト等が「5 適切である」または「4」と回答した学生の割合は概ね 9 割に近い水準であり、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 9: この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 適切である	71.3%	63.7%	73.7%	60.1%	77.4%	75.1%	69.2%	75.9%
4	19.7%	26.9%	22.3%	26.9%	15.8%	16.0%	19.4%	15.2%
3	7.0%	7.3%	2.7%	11.4%	4.9%	7.7%	10.0%	8.0%
2	1.6%	0.9%	0.4%	1.0%	0.8%	0.6%	1.4%	0.8%
1 不適切である	0.4%	1.3%	0.9%	0.5%	1.1%	0.6%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

成績評価の方法が「5 適切である」または「4」と回答した学生の割合は 9 割程度であり、従来と同様に高い水準にある。成績評価は GPA による評価の基礎となっているため、学生からの納得感は重要である。ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており、今後もこれを維持する必要がある。

設問 10: この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 役に立った	72.5%	62.8%	68.8%	47.2%	73.2%	72.9%	66.8%	70.0%
4	20.5%	27.4%	22.8%	37.3%	17.0%	17.1%	22.1%	20.7%
3	5.7%	7.3%	7.6%	14.5%	7.2%	7.7%	9.0%	8.0%
2	0.4%	1.7%	0.9%	0.5%	0.8%	1.1%	2.1%	1.3%
1 役に立たなかった	0.8%	0.9%	0.0%	0.5%	1.9%	1.1%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

シラバスが「5 役に立った」または「4」と回答した学生の割合は 9 割程度であり、従来と同じように高い水準を維持している。

設問 11: 総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 評価できる	75.8%	61.5%	70.1%	61.1%	74.7%	74.6%	67.8%	72.6%
4	18.4%	31.2%	25.4%	27.5%	15.8%	18.8%	25.3%	18.1%
3	3.7%	5.6%	3.1%	9.8%	5.3%	5.0%	5.2%	8.0%
2	1.2%	0.9%	1.3%	1.0%	1.5%	0.6%	1.4%	1.3%
1 評価できない	0.8%	0.9%	0.0%	0.5%	2.6%	1.1%	0.3%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

教員のパフォーマンスを「5 評価できる」または「4」とした学生の割合は 9 割程度であり、従来と同様に高い水準を維持している。総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため、今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 12: この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 役に立った	57.0%	44.0%	58.0%	37.3%	53.2%	60.8%	50.9%	53.2%
4	14.3%	19.2%	20.5%	20.7%	17.4%	11.6%	19.7%	19.4%
3	17.2%	23.5%	12.9%	29.5%	21.5%	21.0%	20.1%	17.7%
2	4.9%	6.4%	4.0%	9.3%	3.8%	2.2%	4.8%	4.6%
1 役に立たなかった	6.6%	6.8%	4.5%	3.1%	4.2%	4.4%	4.5%	5.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

公認会計士試験の受験に「5 役に立った」または「4」と回答した学生の割合は、2021 年度以降、後期においてやや低下していたが、今年度は前期よりも高くなっている。

設問 13: この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
5 役に立った	68.4%	62.8%	73.2%	51.8%	66.4%	69.1%	60.9%	69.2%
4	20.1%	26.1%	17.9%	37.8%	21.1%	18.8%	25.3%	19.0%
3	7.4%	9.4%	7.6%	9.3%	9.1%	9.4%	10.4%	8.4%
2	2.9%	1.7%	0.9%	0.5%	0.8%	0.6%	2.1%	1.7%
1 役に立たなかった	1.2%	0.0%	0.4%	0.5%	2.6%	2.2%	1.4%	1.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

将来のキャリアに「5 役に立った」または「4」と回答した学生の割合は 9 割に近い水準にあり、従来と同じように高い水準を維持している。

設問 14: あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。

選択項目	2021 前期	2021 後期	2022 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
税理士会計科目/公認会計士短答式/日商簿記1級	23.0%	24.4%	25.4%	38.3%	33.2%	54.1%	41.2%	49.4%
日商簿記2級	55.3%	53.4%	58.5%	35.2%	43.8%	29.3%	42.2%	35.0%
上記についてなし	21.7%	22.2%	16.1%	26.4%	23.0%	16.6%	16.6%	15.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	244	234	224	193	265	181	289	237

設問 14 では、資格試験を 3 段階（① 税理士会計科目／公認会計士試験短答式／日商簿記 1 級レベル以上、② 日商簿記 2 級レベル、③ それ以下）に分けて、回答者がどの段階の知識があるかを質問している。入試段階で一定の簿記の素養を確認しているため、学生は概ね日商簿記 2 級レベル以上の実力は有していると考えられる。ただし、本設問では、資格の有無を問うているので、必ずしも実力と連動するわけではないことに留意が必要である。2024 年度後期では、前年後期と同様に①のレベルの回答者が最も多い傾向が確認された。

設問 15： 会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。

選択項目	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
東北大学経済学部へ所属				22.8%	11.3%	11.6%	15.2%	15.6%
東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属				38.3%	46.0%	37.6%	38.1%	46.0%
社会人として勤務				20.7%	13.2%	22.1%	17.3%	16.5%
留学生				17.1%	24.5%	20.4%	22.8%	17.7%
その他				1.0%	4.9%	8.3%	6.6%	4.2%
計				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数				193	265	181	289	237

設問 15 は回答者の入学前の所属についてである。半数程度が学部出身であるが、社会人や留学生がそれぞれ 2 割程度在籍していることが読み取れる。

設問 16: この授業の主な受講方法を選択してください。

選択項目	2020 前期	2020 後期	2021 前期	2022 後期	2023 前期	2023 後期	2024 前期	2024 後期
対面				8.8%	52.5%	49.7%	67.8%	71.7%
オンデマンド				50.3%	30.2%	35.4%	22.5%	21.9%
リアルタイム				40.9%	17.0%	13.3%	9.3%	5.9%
その他				0.0%	0.4%	1.7%	0.3%	0.4%
計				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数				193	265	181	289	237

設問 16 は授業の主な受講方法についてである。コロナ禍であった 2022 年度後期に比べると、オンライン講義が減っており、コロナ前と同様に対面講義が主流となっていることが読み取れる。

4.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

また、担当科目の授業アンケートの結果に対するリプライを各教員に依頼し、その結果をまとめて学生に開示している。授業アンケートを通じて教員が得たフィードバックを執筆することで、授業アンケートの結果がさらに授業に活かされることを期待している。

5. 結び

2024 年度後期における「会計大学院の修了者に対するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果を踏まえると、本会計大学院の授業は総合して良好な評価を得たと考えられる。

本会計大学院が抱える課題については、学生の学習時間の確保である。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫する必要があると考える。

最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げます。

資料1：2024年度「会計大学院の修了者に対するアンケート」設問用紙

このアンケートは、会計大学院のカリキュラムや施設等の改善に役立てることを目的として、修了予定者を対象にアンケートを実施します。2024年度修了予定の方は、会計大学院の発展と後輩のために、修了者アンケートにご協力ください。

本アンケートへの回答には東北大 ID が必要となりますが、回答で個人アドレスは識別せず個人名と回答のひもづけは行いません。回答内容からの個人特定が気になる場合には、コース、入学前の状況、自由記述欄は無回答でかまいません。個人ごとの回答についての情報は一切公表せず、集計された結果のみを利用します。ただし、自由記述については原則として原文のまま関連する担当者に伝達します。

番号	質問	回答
1	あなたのコースについて、該当するものを選んで下さい	(1)公認会計士コース (2)会計リサーチコース (3)ビジネスアカウンティングコース
2	入学前の状況	(1)学部（日本の大学） (2)学部（海外の大学） (3)社会人（企業等に勤務） (4)その他
3	これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
4	Semester ごと の開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
5	成績評価に用いている GPA は、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
6	時間割上の配置について適切だと思いますか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
7	講義室について満足度をお聞かせください	(5)満足である (4) (3) (2) (1)不満足である

8	院生研究室について満足度をお聞かせください	(5)満足である (4) (3) (2) (1)不満足である
9	会計大学院のトータルの満足度について	(5)満足である (4) (3) (2) (1)不満足である

※今年度のアンケートは Google Form で実施しているため、表示形式は異なります。

資料 2 : 2024 年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生の皆様の意見を反映するためのものであり、集計結果を報告書として公表致します。回答には東北大 ID が必要となります。

授業担当者には誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

回答者属性

番号	質問	回答	
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(6)公認会計士コース(2年) (5)公認会計士コース(1年) (4)会計リサーチコース (3)ビジネスアカウンティングコース	(2)経済経営学専攻 (1)経済学部 (0)その他

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？（おおよその出席率で回答して下さい。）	(5)90%以上 (4)89-70% (3)69-50% (2)49-20% (1)20%未満
3	この授業に係る授業時間外の学習に平均して毎回、どのくらいの時間をかけましたか？（予習、復習、宿題、課題等をすべて合計して回答してください）	(5)4 時間以上 (4)3-4 時間 (3)2-3 時間 (2)1-2 時間 (1)1 時間未満
4	この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5)理解できた (4) (3) (2) (1)理解できなかった
5	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
6	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5)十分だった (4) (3) (2) (1)不十分だった
7	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5)十分だった (4) (3) (2) (1)不十分だった

番号	質問	回答
8	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
9	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
10	この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？	(5)役に立った (4) (3) (2) (1)役に立たなかった
11	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5)評価できる (4) (3) (2) (1)評価できない
12	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5)役に立った (4) (3) (2) (1)役に立たなかった
13	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5)役に立った (4) (3) (2) (1)役に立たなかった
14	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5)税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3)日商簿記2級 (1)上記について無し
15	会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。	(5)東北大学経済学部 (4)東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属 (3)社会人として勤務 (2)留学生 (1)その他
16	この授業の主な受講方法を選択してください。	(5)対面 (4)オンデマンド (3)リアルタイム (2)その他

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

※今年度のアンケートは Google Form で実施しているため、表示形式は異なります。

資料3：2024年度「会計大学院の修了者に対するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース	14	73.7%
	ビジネスアカウンティングコース	4	21.1%
	会計リサーチコース	1	5.3%
	合計	19	100.0%
設問2 入学前の状況	学部（日本の大学）	10	52.6%
	学部（海外の大学）	3	15.8%
	社会人（企業等に勤務）	5	26.3%
	その他	1	5.3%
	合計	19	100.0%
設問3 これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？	5 適切である	8	40.0%
	4	9	45.0%
	3	3	15.0%
	2	0	0.0%
	1 不適切である	0	0.0%
	合計	20	100.0%
設問4 Semesterごとの開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？	5 適切である	6	30.0%
	4	9	45.0%
	3	4	20.0%
	2	0	0.0%
	1 不適切である	1	5.0%
合計	20	100.0%	
設問5 成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？	5 適切である	6	30.0%
	4	7	35.0%
	3	6	30.0%
	2	1	5.0%
	1 不適切である	0	0.0%
合計	20	100.0%	
設問6 時間割上の配置について適切だと思いますか？	5 適切である	6	30.0%
	4	7	35.0%
	3	5	25.0%
	2	0	0.0%
	1 不適切である	2	10.0%
合計	20	100.0%	
設問7 講義室について満足度をお聞かせください	5 満足である	9	45.0%
	4	6	30.0%
	3	5	25.0%
	2	0	0.0%
	1 不満足である	0	0.0%
合計	20	100.0%	
設問8 院生研究室について満足度をお聞かせください	5 満足である	3	15.0%
	4	7	35.0%
	3	8	40.0%
	2	1	5.0%
	1 不満足である	1	5.0%
合計	20	100.0%	
設問9 会計大学院のトータルの満足度について	5 満足である	6	30.0%
	4	11	55.0%
	3	2	10.0%
	2	1	5.0%
	1 不満足である	0	0.0%
合計	20	100.0%	

資料4：2024年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	49	20.68%
	公認会計士コース(1年)	113	47.68%
	会計リサーチコース	5	2.11%
	ビジネスアカウンティングコース	49	20.68%
	経済経営学専攻	7	2.95%
	経済学部	14	5.91%
	その他	0	0.00%
	合計	237	100.00%
設問2 この講義にどのくらい参加しましたか.	90%以上	200	84.39%
	89-70%	35	14.77%
	69-50%	0	0.00%
	49-20%	1	0.42%
	20%未満	1	0.42%
	合計	237	100.00%
設問3 この講義の時間外学習に平均して毎回、どのくらいの時間をかけましたか.	4時間以上	18	7.59%
	3-4時間	22	9.28%
	2-3時間	50	21.10%
	1-2時間	74	31.22%
	1時間未満	73	30.80%
	合計	237	100.00%
設問4 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか.	5 理解できた	117	49.37%
	4	87	36.71%
	3	29	12.24%
	2	4	1.69%
	1 理解できなかった	0	0.00%
	合計	237	100.00%
設問5 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか.	5 適切である	158	66.67%
	4	46	19.41%
	3	25	10.55%
	2	6	2.53%
	1 不適切である	2	0.84%
	合計	237	100.00%
設問6 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか.	5 十分だった	185	78.06%
	4	33	13.92%
	3	17	7.17%
	2	1	0.42%
	1 不十分だった	1	0.42%
	合計	237	100.00%
設問7 教員の説明や声量など、教室でのプレゼンテーションは良好でしたか.	5 十分だった	172	72.57%
	4	40	16.88%
	3	23	9.70%
	2	1	0.42%
	1 不十分だった	1	0.42%
	合計	237	100.00%
設問8 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか.	5 適切である	171	72.15%
	4	41	17.30%
	3	21	8.86%
	2	2	0.84%
	1 不適切である	2	0.84%
	合計	237	100.00%

設問9 この講義の成績評価の方法は適切であると思えますか.	5 適切である	180	75.95%
	4	36	15.19%
	3	19	8.02%
	2	2	0.84%
	1 不適切である	0	0.00%
	合計	237	100.00%
設問10 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか.	5 役に立った	166	70.04%
	4	49	20.68%
	3	19	8.02%
	2	3	1.27%
	1 役に立たなかった	0	0.00%
	合計	237	100.00%
設問11 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか.	5 評価できる	172	72.57%
	4	43	18.14%
	3	19	8.02%
	2	3	1.27%
	1 評価できない	0	0.00%
	合計	237	100.00%
設問12 この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか.	5 役に立った	126	53.16%
	4	46	19.41%
	3	42	17.72%
	2	11	4.64%
	1 役に立たなかった	12	5.06%
	合計	237	100.00%
設問13 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか.	5 役に立った	164	69.20%
	4	45	18.99%
	3	20	8.44%
	2	4	1.69%
	1 役に立たなかった	4	1.69%
	合計	237	100.00%
設問14 既に合格している資格試験等を選んで下さい.	税理士会計科目or 公認会計士短答式・論文集 or 日商簿記1級	117	49.37%
	日商簿記2級	83	35.02%
	上記について無し	37	15.61%
	合計	237	100.00%
設問15 会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください.	東北大学経済学部へ所属	37	15.61%
	東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属	109	45.99%
	社会人として勤務	39	16.46%
	留学生	42	17.72%
	その他	10	4.22%
	合計	237	100.00%
設問16 この授業の主な受講方法を選択してください.	対面	170	71.73%
	オンデマンド	52	21.94%
	リアルタイム	14	5.91%
	その他	1	0.42%
	合計	237	100.00%

2024年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長
委員

吉永 裕登
荻原 啓佑

会計大学院アンケート実施報告書 2024年度後期

2025年4月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会